



バイオマスレジン南魚沼の製造設備。生産拡大へ設備の増強を図る＝南魚沼市

### バイオマスレジン南魚沼

# 需要増で生産強化

## 最終製品製造へ体制整備

植物由来のプラスチック(バイオマスプラスチック)の原料を製造販売するバイオマスレジン南魚沼(南魚沼市)は、コメを主原料とする原料の生産を拡大する。プラスチックごみの削減が世界的な課題となる中、環境に配慮する企業からの引き合いが急増しており、早期に月産量を倍増させるほか、包装資材など最終製品の製造にも乗り出す考え。

バイオマスプラスチック(置ついで、環境への負荷がは原料となる植物がCO<sub>2</sub>を吸収して成長するため、燃やして排出されるCO<sub>2</sub>と差し引きゼロになる「カーボンプリー」)という位置づけで、環境への負荷が小さいと評価されている。レジン社は主に植物由来の原料7割、安全性の高い樹脂3割を混ぜ合わせ、プラスチックの原料となる粒状の樹脂を製造。顧客の要望に応じて彩色や柔軟性を加えて販売している。

レジン社は、元々この原料製造販売を手がけてきたバイオマステクノロジィ(東京)が2017年11月に設立した。複数の工場に製造委託してきたテクノ社が一貫生産体制を整え、海外展開にも取り組むため国内製造販売事業をレジン社に譲渡。原料に古古米などを多く使うことから、物流コストを考慮し、有数のコメ産地である南魚沼市に約3億円を投じて生産設備を整えた。

レジン社が本格稼働したのは今年4月。テクノ社から引き継いだ顧客である乳児向け玩具メーカーなどに原料を供給してきた。プラスチックごみ削減の機運が高まる中、企業からの研究

コメ由来のプラスチック原料

依頼が急増。海外メーカーからの引き合いもあり、現在の月産10〜15tが来年1月以降は倍増する見込みだ。

これに伴い、同社は製造や研究に当たるスタッフの増員を検討。製品の幅も広げ、19年度以降、さらに3億円規模で投資を計画し、レジ袋や菓子用袋、梱包・包装資材などを作る機械を導入、最終製品を内製化する体制を整える。

18年5月期の売上高は約3千万円だが、19年は3〜4倍に伸びる見込み。今後は力カオの殻や賞味期限切れの餅などの原料化に取り組んでビジネスモデルを構築し、将来は竹や間伐材などを原料に使う工場を全国各地に設け、事業を拡大していく方針だ。

テクノ社代表も務めるレジンの神谷雄仁社長は「環境に優しいプラスチック製造を通じ、地域の資源を無駄なく活用する仕組みを確立したい。将来的には株式上場を目指したい」と話している。

### 環境 コメのプラ原料、生産拡大

植物由来のプラスチックの原料を製造販売するバイオマスレジン南魚沼(南魚沼市)は、コメを主原料とする原料の生産を拡大する。 県内経済・8面

にいがた経済 BizNingata